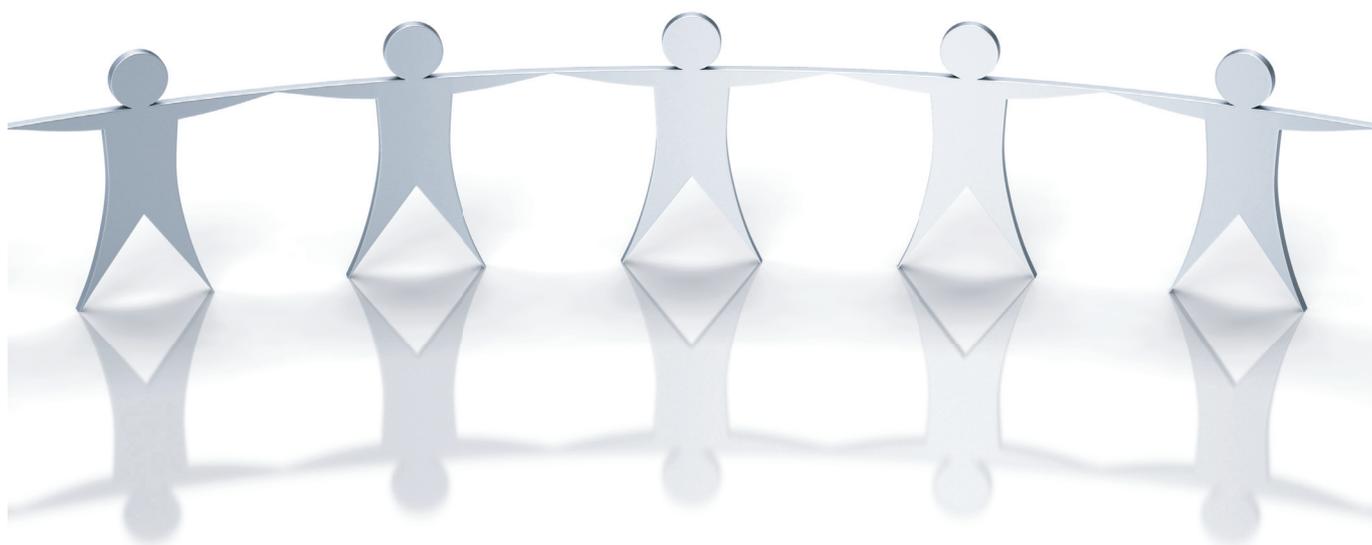


# CSR REPORT

東洋アルミニウムCSR報告書

2009



## CONTENTS

## ページ

トップメッセージ	2
東洋アルミグループのCSRへの取り組み	3
軽金属奨学会の活動	4
コンプライアンスの取り組み	5
情報セキュリティの取り組み	6
安全衛生の取り組み	7, 8
品質保証の取り組み	9
環境調和の取り組み	10 ~ 19

### 本報告書の対象範囲

東洋アルミニウム株式会社  
東海アルミ箔株式会社  
東洋アルミエコープロダクツ株式会社  
(TEPと略することがあります)  
イー・エル・ピー株式会社  
東海東洋アルミ販売株式会社  
トーヤル アメリカ社  
トーヤル ヨーロッパ社  
トーヤルテクノフロンティア株式会社

### 対象期間

本報告書のデータ集計期間は  
2008年4月～2009年3月です。  
一部、これ以前のデータを含みます。

## 会社概要

商号	東洋アルミニウム株式会社 Toyo Aluminium K.K.	
本社所在地	〒541-0056 大阪市中央区久太郎町三丁目6番8号	
設立	1999年5月12日 (旧東洋アルミは1931年4月設立)	
資本金	80億円	
株主	日本軽金属株式会社 100%	
営業品目	アルミ箔、アルミ板、アルミペースト・アルミパウダー、アルミ合金粉、 ブロンズパウダー、高純度窒化アルミ粉 他	
決算期	3月31日	
従業員	約800名	
事業場	大阪オフィス	大阪府大阪市
	東京オフィス	東京都品川区
	八尾製造所	大阪府八尾市
	新庄製造所	奈良県葛城市
	群馬製造所	群馬県伊勢崎市
	日野製造所	滋賀県蒲生郡

## トップメッセージ

私たち東洋アルミグループは、業界 No1 企業として堅実な事業経営を通じて常にお客様の満足を得られる製品、且つ、社会に有用な製品及びサービスの提供を目指しています。その基盤として、CSR（企業の社会的責任）を重視する経営を展開していきたいと願っています。

この CSR を推進する母体として、2008 年 10 月に CSR 推進室を設置しました。この CSR 推進室を中心として、コンプライアンス推進、情報セキュリティ推進、安全推進、品質保証、環境調和の 5 点を重点課題として取り組んで参りました。これらの活動を全社的に展開することによって、社会の皆様から信頼して頂ける企業になるように、そして従業員には誇りを持てる企業になることを目指しております。



この CSR 報告書は、これらの活動を皆様にご報告するために作成致しました。

今後ともこれらの活動を積極的に推進することで、良き企業市民であり続けたいと願っています。この東洋アルミグループの CSR に対する姿勢をご理解頂き、皆様方からの一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 今須聖雄

## 経営理念

- ・ 未来を創る、私が創る。  
会社は夢の実現の舞台を提供する。
- ・ 企業倫理に基づき、法令を順守する。
- ・ 生き生きとした、自由闊達な  
企業風土を育む。
- ・ 団体の天才を目指す。

## 行動指針

- 1、一流を目指そう。
- 2、知恵くらべに勝とう。
- 3、コミュニケーションを深めよう。
- 4、失敗力を身につけよう。
- 5、感性をもっと働かそう。
- 6、アライアンスの構築を図ろう。
- 7、安全への意識をもっと高めよう。

## 東洋アルミグループのCSRへの取り組みについて

CSR（企業の社会的責任）の重要性が一層高まる中、東洋アルミグループでは、これを企業の中心的課題として捉え、誠実に取り組んでいきたいと考えています。

その中でも、特にコンプライアンス推進、情報セキュリティ推進、安全推進、品質保証、環境調和の5点を重点課題として取り組んで参りました。

コンプライアンス推進については、関係法令及び規則を遵守することはもとより、社会的規範や企業倫理に適合した企業活動を行うことを基本として、コンプライアンス委員会を中心として、職場単位のコンプライアンスミーティング、研修、教育、啓蒙活動を展開してきました。

情報セキュリティについては、情報セキュリティ委員会を中心として情報セキュリティ事故0（ゼロ）を目指した活動を展開しています。

安全推進については、労働安全衛生が職場において最優先事項であるという考えの基に、職場毎でのミーティングや全社重大事故対策、安全教育の展開を進めてきました。

品質保証については、安心してお使い頂ける製品、お客様の満足を得られる製品、且つ、社会に有用な製品及びサービスの提供をするという考えに基づいて、品質マネジメントシステムの効率的運用の活動を進めて参りました。

また環境調和については、地球環境と調和した経営活動を通じて社会に貢献するという認識の基に、全社的な省エネ推進、廃棄物削減等の活動を進めて参りました。

今後もCSR活動の充実に努めていく所存であります。皆様の一層のご支援をお願い致します。

上席執行役員 CSR 推進室長 福井康司

## CSR基本方針

東洋アルミグループは、健全な事業活動を維持向上できる企業風土の構築を目指します。

そのために、社会規範や企業倫理に適合した企業活動の展開、安心してお使い頂ける製品品質の提供、地球環境と調和した経営活動の推進、及び労働安全衛生を職場の最優先事項とした活動を通じて社会的責任を果たす経営を展開して参ります。

## 財団法人軽金属奨学会の活動

財団法人軽金属奨学会は、1955年（昭和30年）1月に、当時の東洋アルミニウム株式会社の創立25周年記念事業の一環として、同社の大株主であったアルキャン・アルミニウム・リミテッドの協力を得て設立されました。それ以来、東洋アルミニウム株式会社の株式を基本財産とし、その安定した配当により財政基盤が確立し、関係者の理解と協力を得て、研究助成事業の充実と振興奨励事業の新しい展開を図りながら事業活動を続けています。

同会の目的は、軽金属に関する学術の研究及び教育を助成奨励し、軽金属工学の進歩に寄与するところにあります。軽金属工業及び軽金属工学の振興助成のためには、その基礎となる大学での研究教育を充実させることが大切であるという認識の基に、事業の重点を大学における軽金属教育や研究の助成に置いて、諸活動を展開しています。

具体的な活動としては、教育研究資金、研究補助金、海外交流補助金といった1件としては10万円から25万円と小口ですが多数の先生方を対象にしたものと、課題研究や統合的先端研究といった1件で1000万円から2000万円（共に2年間）とまとまった研究資金を提供するものがあり、他には各大学図書館への軽金属関係文献の寄贈、軽金属学会活動の援助、軽金属研究者の表彰等を行っています。

東洋アルミグループは、この財団法人軽金属奨学会が設立されて以来54年間、ずっとその活動に協賛し応援をしています。



## コンプライアンスの取り組み

東洋アルミグループのコンプライアンス活動は、2003年12月より「コンプライアンス委員会」を活動母体としてスタート致しました。

先ず、第1ステップを「仕組みづくり期」と位置づけ、次のような活動を進めてまいりました。

04年 3月	各部署での関係法令の洗い出し
04年 8月	各部署での法的リスクの課題の洗い出し
04年 11月	企業行動憲章の制定、配布
06年 6月	コンプライアンス相談ライン利用規程制定
06年 7月	コンプライアンス相談ライン設置、運用開始
06年 10月	コンプライアンス・マニュアル作成、配布
06年 11月	独占禁止法遵守マニュアル作成、配布
07年 12月	不当要求マニュアル作成、配布
08年 12月	コンプライアンス・ミーティングの導入
09年 8月	全役員、全管理職より誓約書の提出

第1ステップの「仕組みづくり期」を経て、2006年10月より第2ステップを「全社展開期」とし、各事業所にコンプライアンス推進グループを設置し、各事業所での草の根活動を通じて全社展開を図っています。

コンプライアンス推進グループは、各事業所 数名より構成され、主として、啓蒙・教育、モニタリング活動等を担っております。

その活動の内容については、年2回(3月と9月)開催される全社コンプライアンス委員会において各リーダーより報告しております。

東洋アルミグループのコンプライアンス活動は着実に進めています。企業の社会的責任(CSR)を果たし、良き企業市民として社会との信頼関係を維持し、健全な企業として永続的に発展していく為に、社員ひとり一人がコンプライアンスについての理解を深め、「企業行動憲章」の理念に沿って行動してまいります。



コンプライアンス活動のシンボルマーク「天秤」

## 情報セキュリティの取り組み

東洋アルミグループは、お客様および当グループの営業秘密・個人情報等の情報を適切に管理し、あらゆる脅威から保護し、お客様とお客様を取り巻く社会の信頼に応えると共に、当グループの継続的・安定的な事業運営に役立てるため2006年4月に情報セキュリティ運営委員会を発足し、情報セキュリティ活動に取り組んでいます。

当社大阪オフィス、東京オフィス、八尾製造所および新庄製造所の主要部門において、2007年3月にアルミ箔業界初のISO27001（情報セキュリティマネジメントシステム国際規格）を認証取得致しました。同年11月には製造ラインを除く全社に認証範囲を拡大し、さらに2008年には主要子会社にも活動範囲を広げ、東洋アルミエコープロダクツ株式会社、東海東洋アルミ販売株式会社、東海アルミ箔株式会社の各社とも認証取得致しました。

「情報セキュリティ事故0（ゼロ）」を目標に掲げ、以下に示す指針を策定し、各種社内規程の充実とセキュリティ環境の強化を図り企業の社会的責任を果たして参ります。



### < 主な指針 >

- ・情報セキュリティ運営委員会を中心とした社内体制を構築し、情報セキュリティの向上のための資源を確保します。
- ・情報の漏洩、紛失、改ざんや機器の破壊、盗難、故障等のリスクを低減させるべく必要な対策を講じます。
- ・会社法、個人情報保護法、著作権法等の各種法令を遵守すると共に、法的規制要求事項に適合するよう社内システムを構築・運用します。
- ・契約の履行、遵守は勿論、お客様の情報を適切に保護します。
- ・全従業員に対し、情報セキュリティの教育、訓練を行い、啓蒙活動に務めます。
- ・情報セキュリティに関する重大事故が発生した場合は、即座に緊急対策本部を設置し、被害の拡大を防止します。
- ・情報セキュリティに関する違反者に対しては厳正な処分を行います。

## 安全衛生の取り組み

従業員の安全と健康の確保は製造業の基本要件であり企業存続の基盤であります。

東洋アルミグループは、「労働安全衛生が職場において最優先事項である」という理念の下、東洋アルミグループで働く全ての人の労働安全衛生への意識を高め、安全で働きやすい職場環境を整えるために、活動を進めてまいりました。

### 1. 安全の取り組みと安全成績

東洋アルミグループは、社長の安全パトロールやCSR推進室が中心になった各製造所、各グループ会社の製造拠点の安全活動の状況に応じた安全パトロール、監査を行い各事業所の安全レベルの向上に尽力してまいりました。またグループ全体の取り組みとして重大事故に繋がりにくい危険箇所対応としてテーマを決めて取り組んできました。

これらの結果、労働災害の発生状況に改善傾向が見られてきました。これからもさらにリスクアセスメントの充実、過去の事故対策の有効性のフォローなどグループ一体となった安全活動で労働災害の撲滅を目指します。

個別には、

- 八尾製造所でOHSAS 18001の認証を本年2月取得しました

- 東洋アルミエコプロダクツ(株)滋賀工場では昨年無災害5700日を達成しました  
( (本年9月に **無災害6000日** を達成しています ) )

- 日野製造所では日野消防署主催の消防大会に参加して屋内消火栓部門で入賞しました



特に2008年は東洋アルミグループの重点取り組みとして回転物による巻き込まれ事故に焦点を当て、可能性のある箇所の摘出と対策の実施を行いました。多い事業所では50件近くのリスクが摘出され対策がとられました。

## 2. 安全体感教育

個人の安全意識の高揚と基本的な安全知識を、体験を通して確実にを行うことを目的に関西地区・関東地区でそれぞれ安全体感教育を実施してきました。

関西地区、関東地区では、揚重、回転物、電気などの基礎を体験しました。

また関西ではさらに、粉塵爆発、静電気などの教育を行い日頃の作業における危険を再確認しました。これまでの座学と違い体験を通じた安全への意識向上が図れたと思われます。弊社では今後も継続して実施し、体験で身に着けた確実な安全を目指していきます。



## 3. 衛生・健康

### ● 新型インフルエンザ対策

- 鳥インフルエンザを想定した新型インフルエンザ対策を検討し、対策組織や消毒薬・マスクなどの衛生具類の確保などの活動を行いました。
- また啓蒙活動として研修において新型インフルエンザについての説明を行いました。
- パンデミック対策としてビジネス継続プランの準備を進めています。

### ● 明るく健康な職場づくり（AKS）活動

東洋アルミグループの職場風土の現状把握のために、2008年4月にグループの全従業員を対象とした「明るく健康な職場作りアンケート」を実施しました。

このアンケートの分析結果から、改善すべき問題点が明らかになってきました。

AKSワークチームを発足させ、これら問題点の改善を進めています。

これにより、一人一人が心身共に健康で、充実感を持って働くことのできる職場作りを展開しています。

## 品質保証の取り組み

### CSR推進室品質保証グループについての紹介

2008年3月に中央品質保証室として発足し、主要事業所の品質保証担当代表がメンバーとなり組織されています。2008年10月にCSR推進室が発足したのに伴い、CSR推進室品質保証グループとなりました。

2009年8月現在、箔事業本部（八尾、群馬）、粉末製品事業本部、東洋アルミエコープロダクツ株式会社、東海アルミ箔株式会社からのメンバーとCSR推進部メンバーで構成されています。

### 品質保証への取組み

#### 1. 品質マネジメントシステムの維持向上

事業所（事業部）の品質マネジメントの推進についてCSR推進室メンバーが品質監査を実施して、全社的な観点からレベルの平準化とレベルアップを進めています。

2008年度に主要事業所8箇所の監査を1巡しました。

現在2009年度に入り2巡目を開始しています。

#### 2. 新製品・新技術の審査会議実施

新製品・新技術を世に送り出す前に、品質保証の観点から総合的にチェックして、製品・技術に問題を発生さないための取組みを進めています。

#### 3. ISO9000マネジメントシステム認証取得状況

会社	事業所	認証時期
東洋アルミニウム株式会社	八尾製造所	1996年 10月
〃	群馬製造所	1996年 10月
〃	新庄製造所	1997年 9月
〃	日野製造所	1998年 3月
東洋アルミエコープロダクツ(株)	滋賀工場	1998年 8月
東海アルミ箔株式会社	蒲原工場	1998年 4月
〃	茅ヶ崎工場	1998年 4月
〃	矢畑工場	1998年 4月
〃	苫小牧工場	1998年 4月

## 環境調和の取り組み



## 東洋アルミグループ環境方針

### 基本理念

東洋アルミグループは、「地球環境と調和した経営活動を通じて社会に貢献する」という認識の下、企業活動のあらゆる面で地球環境保全を重要課題と位置付け、持続可能な社会の構築に向けた取り組みを継続して推進する。

### 基本方針

1. 省エネルギー、省資源、廃棄物減量化、資源リサイクルを推進する。
2. 製品の設計・資材の調達・生産・流通・販売・使用・廃棄に至る各段階で環境に配慮した取り組みを行う。
3. CO<sub>2</sub>、フロン、その他有害物質など地球環境に負荷を与える物質の低減に取り組む。
4. 環境に関する法律、条例、協定を遵守し、行政の施策に協力し、国際的な協調に努める。海外事業展開にあたっては、投資先国の環境上の基準を十分に把握し、環境に配慮した取り組みを行う。
5. 環境保全に関する社員教育を実施し、社員一人ひとりが地球環境問題の重要性を自覚して保全活動に努めるようにする。

### 環境目標

私達は次のような環境目標を設定し、実現に向けて取り組んでいます。

1. 省エネルギー  
原単位で毎年1%以上の改善  
(電気、ガス、重油の使用量削減)
2. 産業廃棄物削減  
原単位で毎年2%以上の削減  
(製造工程から出る廃棄物の削減)

(注) これまで産業廃棄物を毎年5%以上削減するという目標で取り組んできましたが、各製造サイトのISO14001での取り組み目標は原単位になっており、より現実的な目標に変更しました。

### 環境調和推進策

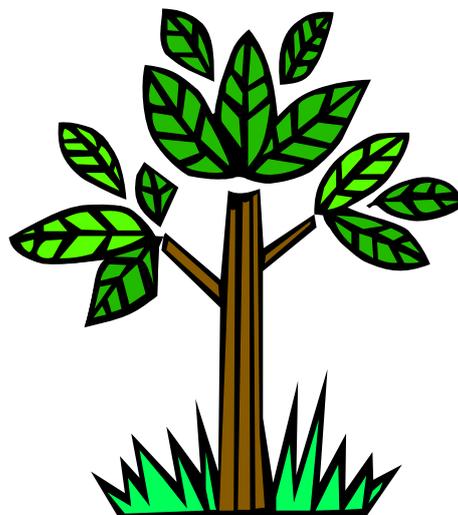
上記の目標以外にも、次のような環境を大切にする活動を展開しています。

#### 箔事業本部

1. 発生するスクラップの再生地金やペー  
スト原料としての活用。
2. 圧延油の回収、再利用。
3. 箔加工工程で発生する溶剤排気の大気  
放出量削減。
4. アルミ箔の薄箔化による資源の有効利  
用化。
5. アルミ箔巻取用スチールコアの複数回  
使用。
6. 太陽電池を守るバックシート。  
(TOYAL SOLAR)
7. 冷蔵庫の断熱用フロンを削減し、省エ  
ネを助ける真空断熱材(VIP)。

#### 粉末製品事業本部

1. アルミペーストの原料に、アルミ箔残材の有効利用。
2. 工程内の集塵で回収したアルミ粉の再利用。
3. 塗料用としての水性アルミペーストの開発。
4. 当社の急冷アルミ合金粉末製品を用いた車両用部品の軽量化による省エネへの貢献。
5. 太陽電池の効率を上げる裏面電極用インキ。



#### 東洋アルミエコプロダクツ株式会社

1. リサイクルアルミを用いた商品。
2. 製品の包装に再生紙の利用やペットボトルを回収再生した PET 容器を利用。
3. ペットボトルを回収再生した非塩素系繊維を利用した製品(レンジフードフィルター)。
4. 工業用部品の段ボール梱包の通い箱化の推進。
5. アルミ箔及びプラスチックラミネート製品屑材のリサイクルの推進。



#### グループ全体

1. 社内で使用する紙に再生紙の活用。
2. コンピューターアウトプット用紙の減量。
3. 液晶プロジェクター利用の推進。
4. 照明などの節電推進。

## 環境会計

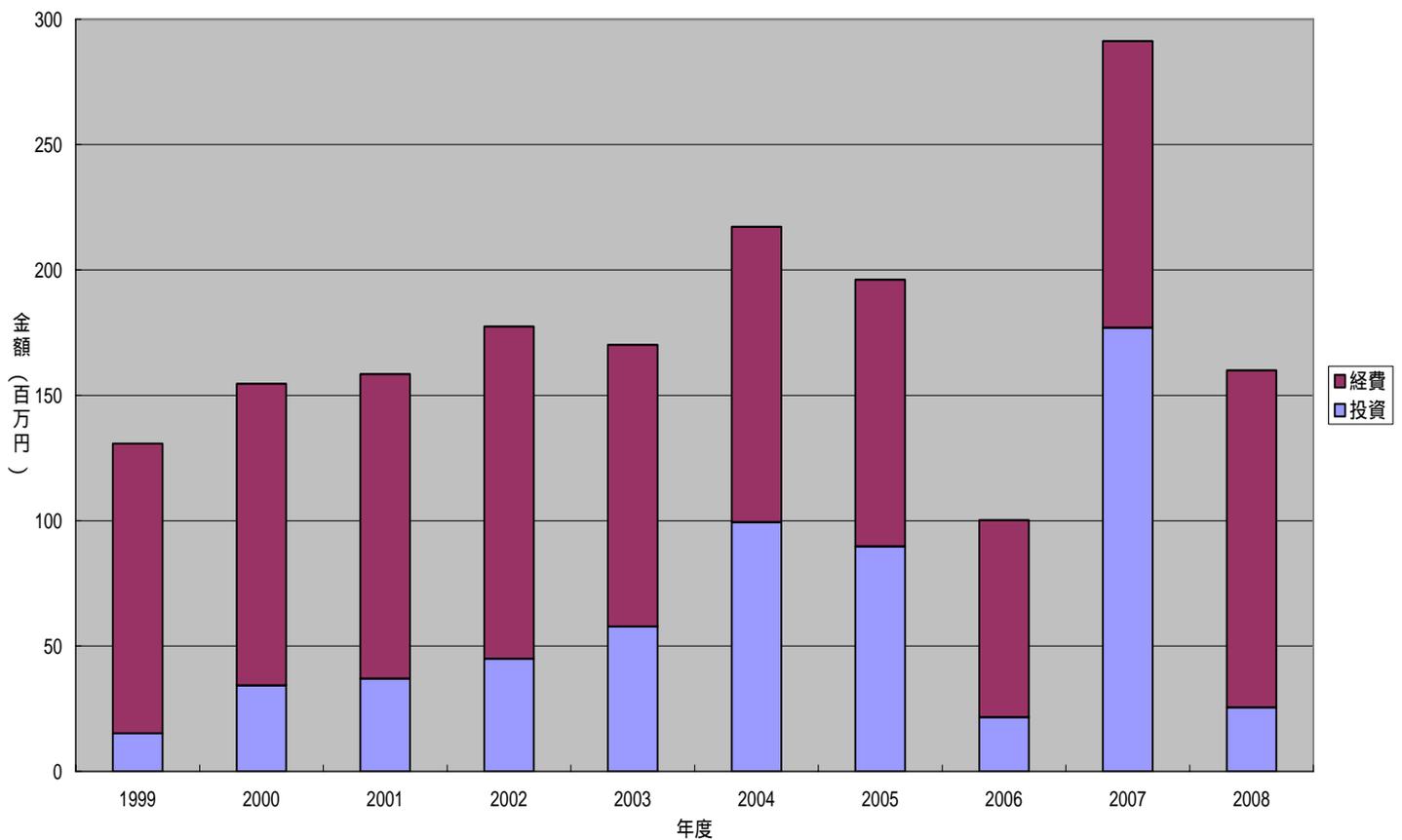
東洋アルミでは1999年度から環境保全の投資・経費の推移を環境会計として集計しています。

集計の範囲：東洋アルミニウム株式会社の4製造所（八尾、新庄、日野、群馬）が中心

集計の期間：1999年度から2008年度までの10年間

集計の項目：環境保全費用の投資（省エネ機器や廃棄物処理装置の設置、騒音対策等）

および経費（環境指標の測定費用、人件費を含む焼却炉などの運転費用、産廃処理費用等）



環境投資・経費の推移

## 環境マネジメントシステム

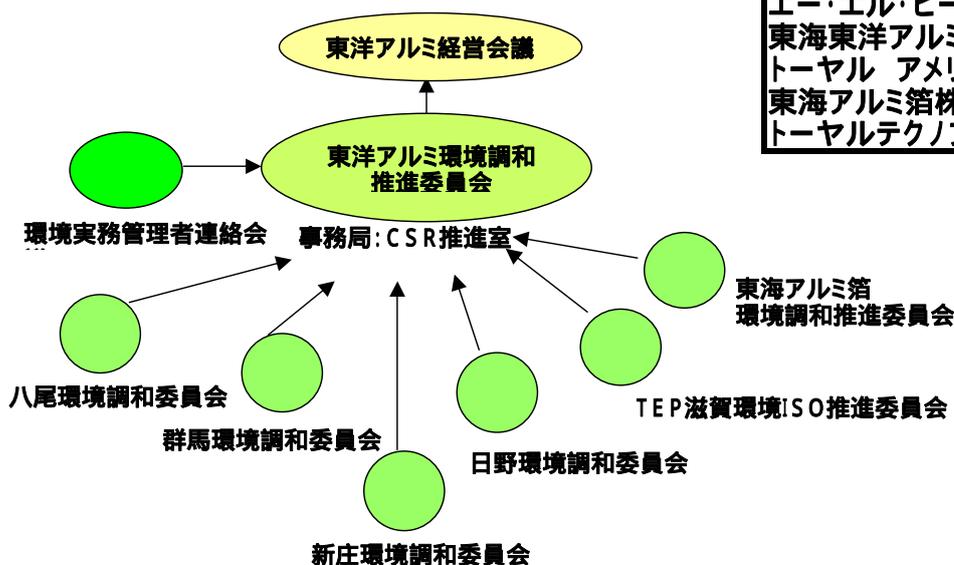
### 環境マネジメントシステム組織体制

東洋アルミでは経営会議の下に役員および関連事業部長で構成される「環境調和推進委員会」を設置し、環境基本方針の具体化と実行に努めています。

八尾製造所と新庄製造所、群馬製造所、日野製造所、東海アルミ箔、TEPの滋賀工場には環境調和委員会を設置し、製造サイトでの環境基本方針の具体化と実行に努めています。

全体の組織図を以下に示します。

環境マネジメント組織図



ISO14001認証取得状況は下表の通りです。

ISO14001認証取得状況

事業所名	登録日
八尾製造所	2001/1/19
群馬製造所	2001/8/3
新庄製造所	2003/4/11
日野製造所	2004/3/26
東洋アルミエコープロダクツ株式会社	2003/3/7
エー・エル・ピー株式会社	2003/3/7
東海東洋アルミ販売株式会社	2001/11/22
トータル アメリカ社	2004/3/4
東海アルミ箔株式会社	2007/6/27
トータルテクノフロンティア株式会社	2008/2/22

## 環境に関する規制遵守の状況

東洋アルミグループでは環境に関する法律、条例、協定を遵守することを基本方針で決めており、以下に示すような取り組みを行っています。

- ◆ 省エネ法届出
- ◆ 容器包装リサイクル法による再商品化委託料支払
- ◆ PCB（ポリ塩化ビフェニル）廃棄物の保管状況届出
- ◆ PRTR 法による化学物質の届出
- ◆ VOC（揮発性有機化合物）排出規制による排出施設の届出
- ◆ VOC（揮発性有機化合物）排出規制による自主的排出抑制の取り組み

### 省エネ法届出

省エネ法（エネルギーの使用の合理化に関する法律）では、エネルギー使用量が一定量を超える事業所はエネルギー管理指定工場に指定され、毎年定期報告書や中長期計画書の提出が義務付けられます。

東洋アルミの八尾製造所、新庄製造所、群馬製造所、日野製造所と東海アルミ箔の蒲原工場と茅ヶ崎工場の6工場がエネルギー管理指定工場に指定されており、毎年届出を提出しています。TEPの滋賀工場はエネルギー使用量が少ないためにエネルギー管理指定工場に指定されていません。

東洋アルミグループには輸送量が年間3千万トンキロメートルを超える特定荷主に該当する企業はありません。

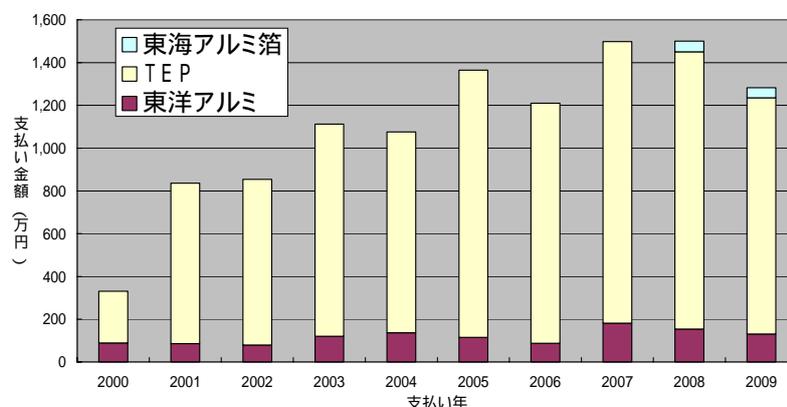
省エネ法の改正により、来年度から企業全体で一括して届出を提出することになるため、東洋アルミと東海アルミ箔は対応を準備中です。

### 容器包装リサイクル法による再商品化委託料支払

容器包装リサイクル法（容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律）では、容器包装の製造者と利用者に再商品化委託料の支払いを義務付けています。

紙製とプラスチック製の容器包装について東洋アルミと東海アルミ箔が製造者、TEPが製造者と利用者として2000年から毎年再商品化委託料を財団法人日本容器包装リサイクル協会に支払っています。過去の支払額推移を以下に示します。東海アルミ箔の支払額は2008年から表示しています。

東洋アルミグループ委託料支払額



## PCB（ポリ塩化ビフェニル）廃棄物 保管状況届出

ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法により、全てのPCB含有機器（廃棄物として保管しているもの及び使用しているもの）を有する事業所は、2016年までの処理を義務付けられています。

国主導のPCB処理機関として、日本環境安全事業（株）（JESCO）が設立されました。現在東洋アルミグループで保管しているPCB含有機器に対してJESCOのPCB廃棄物処理の早期登録を行っています。

## PRTR法による化学物質の届出

PRTR（Pollutant Release and Transfer Register：環境汚染物質排出・移動登録）が法制化され、PRTR法（特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律）で第一種指定化学物質に定められた354物質で年間に1トン以上取り扱うものは、その排出・移動量を管理して、自治体を通じて国に届出をしなければなりません。



東洋アルミが2009年に届け出た2008年度使用分の化学物質のリストは以下の通りです。

法 No.	化学物質名
40	エチルベンゼン
63	キシレン
68	クロム及び3価クロム化合物
145	ジクロロメタン（別名塩化メチレン）
179	ダイオキシン類
224	1,3,5-トリメチルベンゼン
227	トルエン
230	鉛及びその化合物
231	ニッケル
270	フタル酸ジ-n-ブチル
272	フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)
304	ほう素及びその化合物
307	ポリ(オキシエチレン)=アルキルエーテル(アルキル基の炭素数が12から15までのもの及びその混合物に限る。)

ダイオキシン類は、産廃処理設備として登録されている焼却炉がある場合は発生量の多少にかかわらず報告の義務があるため、リストに入っています。多量に発生しているわけではありません。

PRTR法が改正され対象物質が増やされます。増える該当物質がないか調査中です。

## VOC（揮発性有機化合物）排出規制 による排出施設の届出

大気汚染を引き起こしている浮遊粒子状物質（SPM）や光化学オキシダントの排出量削減のため、トルエンやキシレン、ジクロロメタンのようなVOC（揮発性有機化合物）の排出規制が大気汚染防止法の改正という形で実施されました。欧米ではすでに規制されており、トータルアメリカ社ではVOC低減装置を導入しています。

大気汚染防止法は濃度規制で、排出量の規制はありません。規制される施設は以下の6種類の施設です。

- 塗装施設及び塗装後の乾燥・焼き付け施設
- 化学製品製造に於ける乾燥施設
- 工業用洗浄施設及び洗浄後の乾燥施設
- 印刷施設及び印刷後の乾燥・焼き付け施設
- 貯蔵施設
- 接着剤使用施設及び使用後乾燥・焼き付け施設

東洋アルミと東海アルミ箔の加工箔設備とVOCを使用している箔洗浄設備が規制対象になります。貯蔵施設に関しては、規制されるほど大きな施設はありません。圧延機やアルミ顔料を製造するボールミルなども対象外の施設です。対象施設を自治体に登録して、VOC排出濃度を年2回測定することが義務付けられています。

### VOC（揮発性有機化合物）排出規制による自主的排出抑制の取り組み

VOC（揮発性有機化合物）の排出抑制制度では、法律による規制以外にVOC排出削減の自主的取り組みも求められており、東洋アルミと東海アルミ箔は箔関連事業で、日本アルミニウム協会（以下、アルミ協会）の下で他の製箔メーカーと共に自主行動計画を作成しています。アルミ協会の自主活動では、VOCの中でPRT R法対象物質の排出量を、自主行動計画参加の13社で

2010年度までに2001年度比65%削減することを目標としています。自主的取り組みで東洋アルミと東海アルミ箔が削減努力するVOCは、加工箔設備と箔洗浄設備で使用されているトルエン、キシレン、ジクロロメタンの3物質です。

## 環境目標への取り組み

### 省エネルギー

環境省によると現在最重要の環境問題は、「地球の温暖化」です。二酸化炭素を中心とする温暖化ガスの排出増によって、すでに地球大気平均気温は上昇しつつあるというのが定説となっており、人為的な二酸化炭素排出量の90%がエネルギー関連であるために省エネ活動が強く求められるようになっています。

東洋アルミの省エネルギーの目標は総量での削減ではなく、原単位<sup>(注)</sup>の低減を目標としています。全社で毎年1%以上の削減を目指していますが、生産量の変動等に大きく影響を受けているのが実情です。

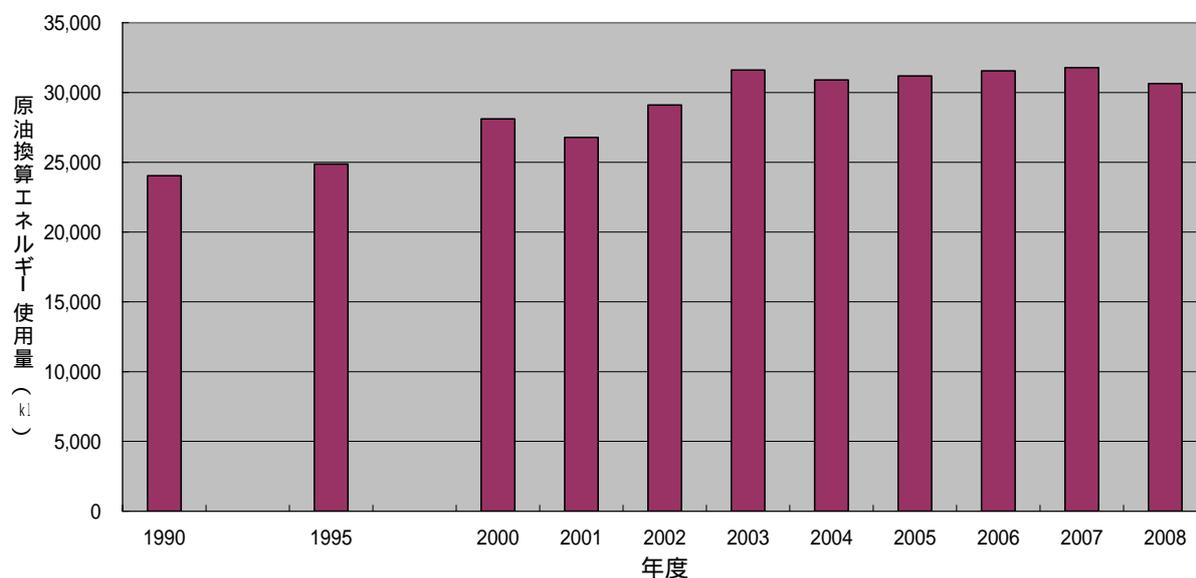
（注）原単位：一定の生産量を製造するのに必要なエネルギーなどの量。原単位が減少すれば効率的に生産していることになります。生産量として重量を用いるか、面積を用いるか、標準換算した生産量を用いるか等は、各製造サイトに任されています。

最近の東洋アルミの製造に使われる総エネルギー使用量(原油換算<sup>(注)</sup>)は以下のように推移しています。2008年度は経済状況により減少しましたが、長期的には事業拡大にともなうエネルギー総量の増加が続いており、省エネの努力を続けていきます。

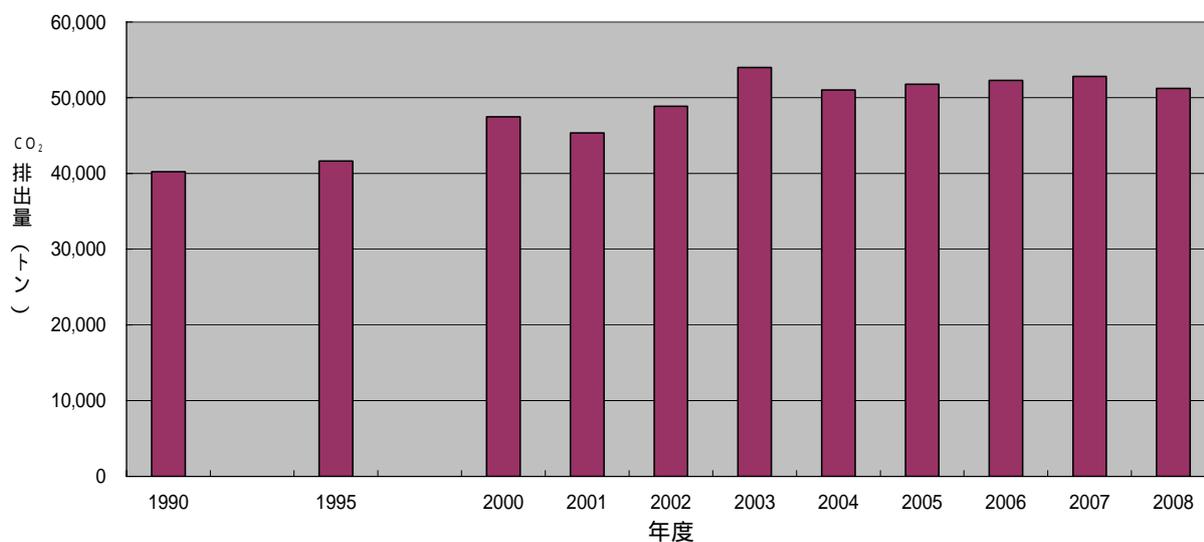
製造にともなうCO<sub>2</sub>の排出量もほぼ同様な推移をしています。

(注)CO<sub>2</sub>の換算も含めて、換算係数は年度で変更せず、単一のものを使用しています。

原油換算エネルギー使用量推移



CO<sub>2</sub>排出量推移



## 産業廃棄物の削減

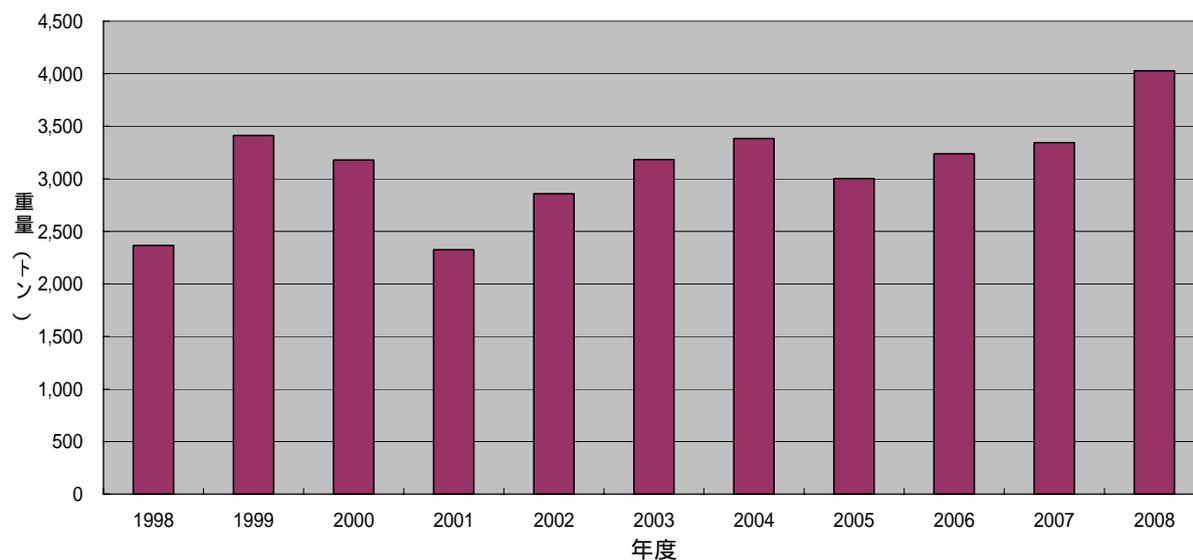
東洋アルミの産業廃棄物削減の目標は全社で毎年5%以上の削減を目指していましたが、各製造サイトの取り組み目標は原単位になっており、より現実的な目標に変更し削減努力を続けていきます。

事業拡大に伴い2001年以降増加傾向にあり、2008年度は製造工程でプラスチックラミネート製品の増加により廃プラスチックが増加してしまいました。今後とも廃棄物の発生抑制と削減に努めます。

東洋アルミの製造にともなう最近の廃棄物重量<sup>(注)</sup>の推移は以下のようになっています。

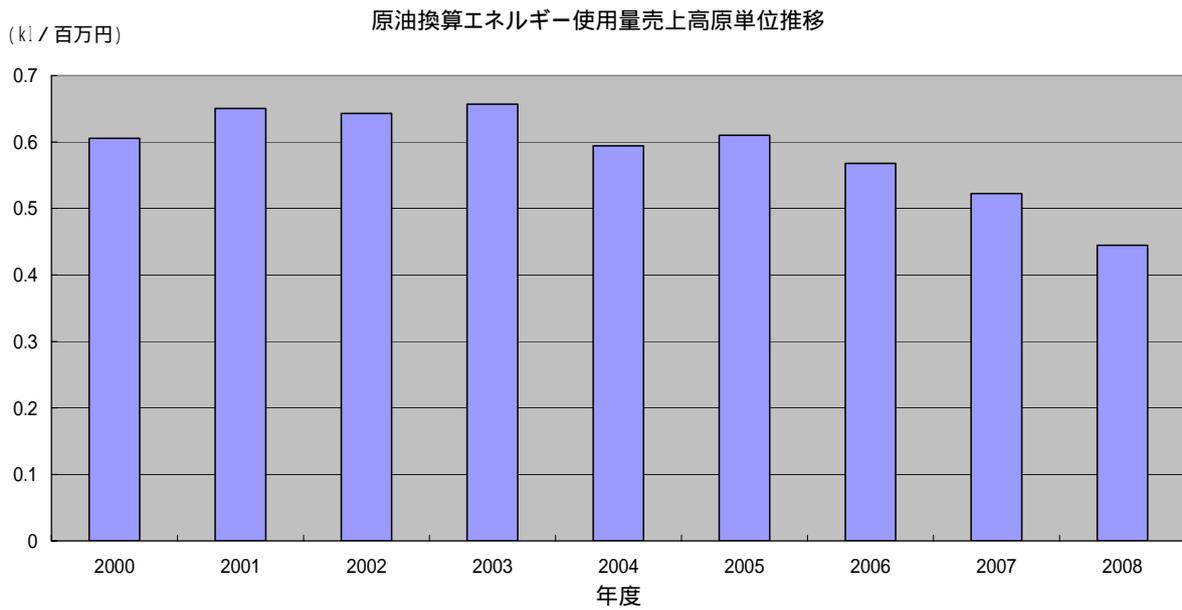
(注) 有価物として排出しているものも含まれます。

廃棄物重量推移



### 原油換算エネルギー使用量売上高原単位の推移

最近の東洋アルミの製造に使われる総エネルギー使用量（原油換算）に対する売上高原単位は以下のように推移しています。増加傾向にあったものが、近年は減少しています。東洋アルミは引き続き、エネルギーの効率的利用に努力して参ります。



本報告書に関するお問合せやコメントは、  
東洋アルミニウム株式会社CSR推進室  
にお寄せください。

〒541-0056 大阪市中央区久太郎町3-6-8  
御堂筋ダイワビル

TEL 06-6271-3163 FAX 06-6243-0517

<http://www.toyal.co.jp/>